

4. トラブルとその対応事例

4-1. 発生が想定される軽微なトラブル事例

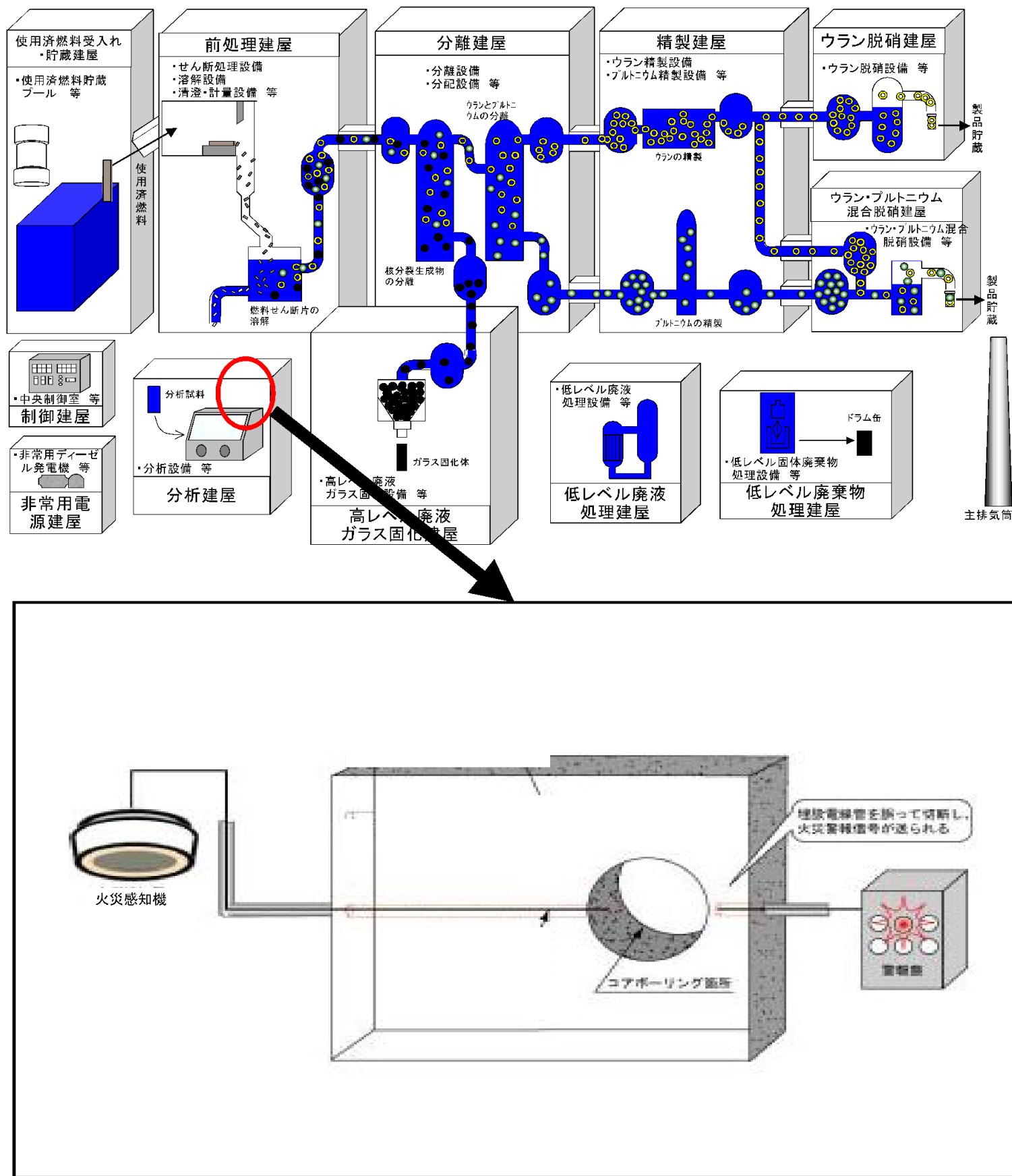
事象分類別 (C. 機器動作不良)

3-47. 壁の穴あけ（コアボーリング施工）による埋設電線管切斷に伴う火災警報の誤発報

事象の概要 (1)発生場所：機器 (2)設備の概要 (3)発生の状況 (4)概要 (5)原因	分析建屋：壁 建屋内の壁。場所によっては、壁の内部に電線管を埋め込んでいる部分や、配管、ダクト等が貫通している部分がある。 工事作業中 工事に係る壁貫通配管施工のため、壁の穴あけ（コアボーリング施工）を行った際、誤って火災感知器につながる埋設電線管を切断し、火災警報が発報。 *他の建屋も含め同種の作業においても、同様な事象の発生が予想される。 貫通穴をあけた際、壁内部に埋設している電線管を誤って傷付けてしまう作業ミス。															
事象による影響 (1)工場外への影響 (2)安全性への影響 (3)作業員への影響 (4)他工程への影響	工場外への影響は生じない。 放射性物質を除去するフィルタ等を有する建屋換気設備が稼働している室内での事象およびそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等の工場外への影響は生じない。なお、本事象は放射性物質の漏えいを伴うものではない。 安全上の問題は生じない。 火災警報の発報は、工事の作業ミスによる誤報であるため、これ以上事象の進展はない。 作業員への影響は生じない。 埋設電線管の復旧にあたっては定められた放射線管理作業計画に従って作業を進めることにより、放射線による作業員への影響は生じない。 他工程への影響は生じない。 改造工事にあたっては、関連する設備は予め停止するため、他工程への影響は生じない。															
対応の概要	1.破損状況を確認する。 2.定められた保修作業手順に従って、破損箇所の保修を行い、復旧する。 保修作業中は、火気監視員による監視を強化する。 3.保修終了後、復旧箇所に異常のないことを確認し、工事を再開する。															
公表区分	翌平日に公表（ホームページへ掲載）															
連絡区分*	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">トラブル情報</th> <th colspan="2">運転情報</th> </tr> <tr> <th>A情報</th> <th>B情報</th> <th>C情報</th> <th>ごく軽度な機器故障</th> <th>清掃・調整等で復旧可能な機器停止等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>不適合等</td> </tr> </tbody> </table>	トラブル情報			運転情報		A情報	B情報	C情報	ごく軽度な機器故障	清掃・調整等で復旧可能な機器停止等					不適合等
トラブル情報			運転情報													
A情報	B情報	C情報	ごく軽度な機器故障	清掃・調整等で復旧可能な機器停止等												
				不適合等												

* :『A情報』：安全協定報告事象等、または、それに準ずる事象、『B情報』：事象の進展または状況の変化によっては、安全協定報告対象になるおそれのある事象等、『C情報』：A、B情報に該当しない軽度な不具合、汚染等、特に連絡を要する事象

事象概要



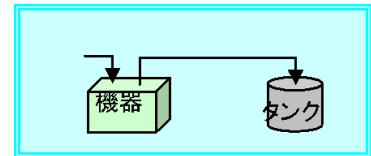
復旧方法

故障した部品の交換により復旧

トラブル等に伴う設備への影響範囲

運転設備に影響なし

設備



運転継続